

人工餌料等利用技術開発

福島県水産種苗研究所

平成9～12年度水産種苗研究所事業報告書

1 部門名

水産業—種苗研究(基礎)—餌料

分類コード 19—07—20000000

2 担当者

鈴木信・平田豊彦・千代窪孝志

3 要旨

アサリを含む海産二枚貝の飼育餌料は現在、微小藻類以外にない。既存餌料の*Chaetoceros calcitrans*は二枚貝の飼育餌料として好適であるが培養管理に多くの手間と経費がかかる。

このため、代替餌料の開発をねらいに市販されはじめた他生物用の人工飼料でその可能性を検討し、併せて効率的な給餌方法についても検討した。

- (1) 選択した人工飼料はクルマエビ、シオミズツボワムシ及びアコヤガイ用の3種類であり、いずれも10 μ m以下の超微粒子飼料である。
- (2) クルマエビ、シオミズツボワムシ用の人工飼料は、いずれも摂餌が確認されなかった。アコヤガイ用人工飼料は摂餌を確認したが対照区の珪藻に比較して飼育成績が大きく下回った。
- (3) 二枚貝の給餌方法について、高温耐性株*Chaetoceros gracilis*と*Tetraselmis tetraathele*2種の混合給餌は既存餌料の*Chaetoceros calcitrans*単独給餌に比較して高い成長率を示すことを明らかにした。

今回の取り組みでは人工飼料の導入がはかれなかったが、餌料が最も必要になる夏期の30℃前後の水温でも粗放的に屋外で大量培養が可能な種類を見出した。さらに、これら2種類の混合給餌は従来の単独給餌に比較して大きな成長促進効果が認められており、給餌方法の改善が図られた。

4 その他の資料等

なし